

8. 目標達成に向けた施策の検討

国の地球温暖化対策計画に示されている中期目標の2030年度と長期目標の2050年度に向けた北茨城市の将来ビジョンに向けた具体的な取組み施策とロードマップを検討する。

8. 1 具体的な取組み方策

6つの方針に基づき以下の通り、個別施策を展開していく。

■方針1 民間企業の脱炭素への取組みの側面支援

本市の脱炭素社会の実現にあたっては、事業者の取組みを確実に進めることが不可欠である。そこで、事業者の取組みの側面支援を実施する。

- 公的補助の獲得支援
- 工業団地間等の意見交換の場を設定
- 先行事例等の情報の共有・展開
- 省エネ、再生可能エネルギーの導入
- 設備の高効率化、脱炭素化された電力による電化の促進

■方針2 未利用資源を活用した再生可能エネルギーの導入と省エネの推進

市内には建物の屋上や荒廃農地に加え、バイオマス資源等の未利用資源が存在する。これらの資源を徹底的に活用することでCO₂排出量を削減する。具体的な取組みは以下の施策を挙げる。

- レジリエンスの強化
- 公共施設・民間企業・住宅の屋根、公共施設の跡地、荒廃農地への太陽光発電設備の導入
- バイオマス（木質・稲わら・もみ殻）発電の実施
- エネルギーの地産地消、PPAモデル（第三者保有モデル）による導入促進
- 固定買取価格終了後の太陽光発電の買い取りや連携
- 再エネ促進区域の検討

■方針3 新技術の採用

脱炭素に関する技術開発は日進月歩で進んでいる状況にある。そこで新技術の動向を把握し導入の可能性を検討していく。

- 水素の利用
- 縦型太陽光パネルの導入（屋根置きと併用にて設置）
- ペロブスカイト太陽電池等の今後開発される新技術の採用

■方針4 利用するエネルギーの転換

化石燃料を使用する機器等から再生可能エネルギーに転換することでCO₂の削減に貢献する。そこで、内燃機関の自動車から電動車への切替の促進等を行う。

- EVステーションの整備
- EV車への乗り換えの促進
- 燃料電池車（FCV）の採用

■方針5 森林・海洋・土壌の保全・改善による吸収量最大化

本市には森林等豊かな自然を抱えている。これら資源を CO₂ 吸収源として活かす取組みを実施する。

- 森林経営計画に沿った、市内森林の整備
- ブルーカーボン、カーボンファームの活用に向けた検討の実施
- Jクレジットを活用した市内循環の仕組み作り

■方針6 市民・事業者の意識醸成による取組み促進

CO₂ 削減への取組みは市民・事業者の協力が不可欠である。そこで取組みに対する意識の醸成を図る取組みを展開する。

- プラスチック製品の使い捨て容器等を使用しない、環境に配慮した物品の購入の推進、省エネルギー型住宅（ZEH）の購入
- 建築物の省エネルギー化（ZEB）の推進
- 環境教育、環境学習の促進

官民連携による脱炭素を通じた活力にあふれるまちづくりの実現 ～自然と共生した快適都市～

脱炭素に向けた取
組みの側面支援

未利用資源を活用し
た再生可能エネルギー
の導入と省エネの推進

新技術の採用

利用するエネルギーの
転換

森林・海洋・土壌の保全・
改善による吸収量最大化

市民・事業者の意識醸成による取組促進

図 37 本市が目指すイメージ